

課題解決型高度医療人材養成プログラム 選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント

〔取組2〕 看護師・薬剤師等のメディカルスタッフを対象とした事業
(2) 指導力を有し地域医療で活躍できる薬剤師の養成

	整理番号	20
申請担当大学名	大阪大学	
事業名	地域チーム医療を担う薬剤師養成プログラム	
事業責任者	薬学研究科長 堤 康央	
事業の概要		
<p>本事業では、大阪大学と先駆的な地域チーム医療を実践する地域（病院、診療所、薬局、行政等）の連携により、学部生、指導薬剤師、臨床系教員を対象とした「地域医療教育モデルプログラム」の開発と普及を行う。具体的には①アドバンスト地域医療教育・演習プログラム（医療コミュニケーション、先進臨床薬学、地域医療技能、緩和ケア・終末期医療に関する講義・演習）及び②アドバンスト地域医療実習・研修プログラム（多職種連携の地域チーム医療を実践する地域での基礎、参加型及び課題解決型実習）を開発し、更に③改訂カリキュラム対応実務実習支援プログラム（教育目標到達度評価、アドバンストワークショップ、対応実習実施・指導プラン）のモデル構築によって、開発したモデルプログラムの普及と改訂カリキュラム準拠の実務実習における地域医療教育プログラムとしての定着化を実現させることにより、地域医療で活躍できる薬剤師の輩出を達成する。</p>		
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：充実に要する点等		
<p>○本取組は、地域医療教育の実施体制の整備と指導者の養成及び改訂モデル・コアカリキュラム準拠実習の充実に目的として、モデルとなる地域医療教育プログラムを大学と地域が連携して開発・普及するものであり、課題が明確に抽出されており、本事業の趣旨に合致している。</p> <p>○知識・技能だけでなく、倫理観や使命感を涵養するためのプログラムもバランスよく身につけるように配慮されている。</p> <p>○改訂モデル・コアカリキュラム準拠実習に焦点をあて、プログラムが各施設に定着できるまでを視野に入れて普及計画を立てている点は、課題に対する解決方法として適切といえる。</p> <p>○開発したプログラムを普及し推進する計画では、実効性の高い特定の地域から開始するなど地域性を考慮していることは評価できる。</p> <p>○開発したプログラムは、学部教育においても指導薬剤師、臨床系教員も受講できるよう配慮されており、学生とともに指導薬剤師の指導力や臨床系教員の教育能力をも同時に向上させようとする取組となっていることは評価できる</p> <p>○二つのモデルプログラムの内容・構成は、地域医療教育に必要な事項が体系的に構成されており、また、受講者のニーズに対応できるよう選択方法にも工夫があるため、他大学の参考となりうるものであり、有用性が高い。</p> <p>●有用性が高い教育プログラムであるので、当該大学の25名の学生に加え、事業年度後半では、他大学との連携実施も期待したい。</p> <p>●アドバンスト地域医療実習・研修プログラムでは、コース制の区別が不明確であるので、具体化する必要がある。</p> <p>●プログラムを普及、定着、継続するに当たっては、予想以上に大規模な取組となることもあるので、一元的に情報を管理できる組織体制の確立が望まれる。</p>		
留意事項		
<p>・事業管理における工程表の作成に当たっては、実施地域（地区）における医師会・薬剤師会との連携についても盛り込むこと。</p>		